

令和7年度 1学期始業式講話要旨

1 はじめに

桜満開の中新学期を迎えた。敷地内の櫨も萌黄色の新芽を吹いている。春を表す **spring** は、他にばね、湧き水などの意味を持つように、元々、中から外へ急激に飛び出る、湧き出るイメージを表す言葉。その **spring** 本来の語感どおり、生命が躍動する、希望溢れる季節だ。

2 ドキドキとワクワクを定義する

さて、私は今、ドキドキ、ワクワクした気持ちでここに立っている。ドキドキとワクワク。よくセットで使う。新年度、新しいクラス。今の時期にぴったりだ。それぞれ単体でも使う。ドキドキとワクワク。何が共通で、何が違うだろうか。考えてみてほしい。せっかく新しいクラスで整列しているので、前後の人と2、3人で軽く話してみよう。4組は変わらないメンバーで心理的障壁が少ないから、少し負荷をかけて英語で話してみよう。The question is "What are the similarities and differences between 'dokidoki' and 'wakuwaku'?"

校長が事前に予想したキーワード

興奮 楽しみ 期待 心臓の鼓動 震え excitement, fun, anticipation

不安 おそれ 緊張 ストレス anxiety, fear, nervousness, stress

実際に生徒（3年生）が発言した要旨

「ともに心臓の鼓動が高まる感じを表す。ドキドキには不安や緊張が含まれるが、ワクワクにはそれがなく、純粋な期待感を表すところが相違点だと思う。」

坂高生はすごいね。（拍手）

ドキドキは心臓の鼓動が高まる身体反応を表すとされる。期待と不安が入り混じったような興奮を表現する。一方ワクワクは、純粋に楽しみへの期待が高まる、興奮した感情を表すようだ。

"'Wakuwaku' expresses a sense of pure, fun-filled excitement, while 'dokidoki' describes a mixture of anticipation and nervousness."

感覚的に言うと、ドキドキには多少ストレスがあり、ワクワクはストレスフリーといったところでしょうか。

ドキドキに含まれるストレス感や不安感情も、リスクを予想して回避する能力という点では、生存に必要なものだと思う。

実は、少しさかのぼると、ワクワクにも不安が混じる用例もあるようだ。広辞苑によると、「わくわく」は現代の使われ方のほかに、「寒さ・恐怖などで体が小刻みに震える」ことも表すとあり、宮沢賢治の風の又三郎から「唇を紫にしてわくわくふるへながら」という用例を引いている。他の辞書にはもっと古い用例もあった。調べてみると意外な広がりがあった、面白い。

3 生涯ドキドキ、ワクワク

さて、人生100年時代と言われる。生涯学習、生涯スポーツ。長い生涯を通じて学び続ける。体を動かすことを楽しむ。そういう時代だ。生涯を通じてドキドキ、ワクワクしていこう。そう考えて生きていくのがいいのかなと思う。高校生である皆さんは、今、テス

トに向けて、部活の大会やコンクールに向けて、ドキドキ、ワクワクすると思う。時には、甘酸っぱい感情にドキドキ、ワクワクすることもあるかもしれない。今はそれがすべてのように思われる部活の試合やコンクールや受験も、終着点ではない。俯瞰してみると、それらは、長い人生をドキドキとワクワクに満ちた、充実したものにするための基礎作り、土台作りのような営みであると言える。

3 結び

まずは、この一年、どれだけドキドキ、ワクワクできるか。思い切り挑戦してほしい。私たち教員も、そのロールモデルとなれるよう、ドキドキ、ワクワクを感じながら皆さんと接していけるといいなと思う。